地域密着型サービス事業者　自己評価表

（　認知症対応型共同生活介護事業所　・　小規模多機能型居宅介護事業所　）

事　業　者　名	グループホームななかまど歌志内館　1号館	評 価 実 施 年 月 日	平成21年9月20日
評価実施構成員氏名	門脇靖典・菅原守・小柳倫子・佐藤正美・大西悌一・尾山郁美・岩野優成・前川　雅美・海老名　望		
記　録　者　氏　名	湯澤　佳彦	記　録　年　月　日	平成21年9月22日

北　海　道

	項目	取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取組んでいきたい内容 （既に取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営 １．理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	地域密着型サービスにそった理念を作り上げている。		
2	○理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	毎朝の理念の復唱や、日々の介護現場での気づきなど、毎日のミーティングや、申し送りノートを活用し、理念を共有し実践している。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	家族や町内会、役所にななかまど便りを配布したり、地域行事に参加するなど浸透に努めている。		
２．地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	花壇や畑を作り、道行く人にも気軽に関われるよう努め、他にも夏休み期間にはラジオ体操の場として地域住民と共に交流している。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会の一員として、地域行事に参加し交流に努めている。	○	町内会清掃活動、ペンケウタシナイ川河川清掃、ななかまど祭り、ラジオ体操、七夕祭＆世代交流会、盆踊り大会、市民祭り、おいでな祭り、神社祭、市内他施設との交流会、敬老会、新年会など、地域行事に積極的に参加し、地域住民との交流に努めている。
6	○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	清掃活動や、ラジオ体操、実習生の受け受入など継続して取り組んでいる。		

項目		取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取組んでいきたい内容 （既に取組んでいることも含む）
3．理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価の説明や実施をして、自己評価を見直し、より良いサービスが提供できるよう、改善に取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	定期的に運営推進会議を開催し、サービスの向上につなげている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市役所等へ出向く機会を設けて、お互いに情報の交換や近況の報告、相談を行っています。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	研修を受け制度を理解し、支援できるよう努めている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている。	外部の研修参加や、勉強会を開催し虐待について職員の理解を深めている。事業所等で虐待に繋がることはないか確認し、ミーティング等で話し合い、現状の把握に努めている。		
4．理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解･納得を図っている。	理解や納得が出来ているのか確認しながら、十分な説明を行っている。		

項目		取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取組んでいきたい内容 （既に取組んでいることも含む）
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	町内活動や運営推進会議への参加、日常的な会話など様々な思いを汲み取ることで、運営や日々のケアに活かせるようにしている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	書面による定期的な報告を郵送で行う以外にも、面会時や電話連絡など必要に応じて報告をしている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日常的な会話の中から意見を取り入れ反映できるようにしている。また入居時には外部機関への苦情先も分かるように説明し、苦情連絡先などが分かる資料を渡している。それ以外にもポスターで苦情先を分かるようにしておいたり、意見箱を用意したりとしている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日々のミーティングや会議など、職員ひとり一人が意見や提案をが述べ反映できるようにしている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	日中や夜間を問わず、状況に応じた勤務の調整に努めている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	異動や離職などで居室担当者が代わる時などは、事前に馴染みの職員が新担当者として対応できる様にしている。		

	項目	取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取組んでいきたい内容 （既に取組んでいることも含む）
５．人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修案内は全職員に伝え、参加意志のある職員に対しては、シフトを調整し研修を受けられるようにしている。他にも職員の希望などあれば勉強会を行っている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	認知症ケアネットワークやグループホーム協議会を通して、研修会や交流会を行い、お互いが向上出来る様に取り組んでいる。	○	認知症ケアネットワークとして、河川清掃と夏祭り、他、地域での神輿担ぎを実施。相互訪問等の活動を通じて、意見や情報の交換をし、サービスの質向上となるような取り組みをしている。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	休憩場所の改善と、きちんとした休憩時間が取れるよう徹底。職員の現状に応じた仕事配分をし、重荷にならないよう配慮。		
22	○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	個々の努力や実績、認知症ケアや資格に対する目標や目標達成においての段階的な評価をしている。ケア実践に対する現場での助言や勉強会の開催を行い、向上心や専門性を持って働いてもらえるよう努めている。		
Ⅱ．安心と信頼に向けた関係づくりと支援 １．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居時も、ご本人やご家族と面談をし、ニーズを把握し、入居後のサービスに生かせるよう努めている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	家庭訪問等、面談を重ねることによって、ご家族の不安を軽減できるよう努めている。		

項目		取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取組んでいきたい内容 （既に取組んでいることも含む）
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	面談を重ねる中で、本人・家族の状態・状況を理解し、必要なサービスは何かを考えて相談に応じています。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	面談や施設見学、家庭訪問など入居前に職員や施設、他入居者さんに馴染む場面を多く設けるようにしています。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	畑仕事や、家事支援などの得意なこと趣味活動を通じ、本人から学び、活躍できる場の中で、共に支え合う関係を築いている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	毎月本人の様子を伝える手紙や、写真を送付したり、家族会、面談や家庭訪問を通じ、情報を共有することによって、関係を構築しています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	本人・家族の心理的な段階を踏まえて、通信支援や面会、外出や外泊、行事への参加呼びかけなど支援しています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	以前行っていた美容室や、買い物をしていた馴染みの商店に行くことによって馴染みの関係を継続できるよう支援している。		

項目		取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取組んでいきたい内容 （既に取組んでいることも含む）
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	入居者さん同士の良い関係が構築できるような空間作りに努めていると共に、入居者さん同士の関係を把握することで、より良い関係を構築できるよう支援している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	契約を終了したことで、直接的な関係は終わっているが、継続して相談に応じる体制は整えている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1．一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人とのコミュニケーションを大切にしている。特にその日をどのように過ごしたいのかを会話や様子などから把握出来る様に毎朝の関わりを大切にしています。困難と思える入居者さんでも顔や目の表情で表現している場合もあるので、本人との関わりを第一に考えています。困難な場合は、生活暦や習慣などから検討している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時、入居後と継続して、本人や家族と対話しながらなじみの暮らし方などの把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	ななかまどシート等各種のシートを活用している。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している。	職員一人ひとりが入居者さんの目線でケアや環境などここでの生活全体を観察し、シートに記録し、またそれをミーティングやケア会議の場などで話し合っている。家族とは面談や面会時、電話でのやり取りにおいて要望を聞き、ケアプランに活かしている。		

項目		取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取組んでいきたい内容 （既に取組んでいることも含む）
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	本人や家族、各関係者と話し合いにて見直しを行っている。状態の変化があれば、期間にとらわれずに随時見直しを行い、現状に即した介護計画となるように努めている。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践･結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ななかまどシートや運営日誌、ケアミーティング記録に記入し、情報の共有と職員の気づきの活用を行っている。		
3．多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	買い物･ドライブ･散歩･畑仕事など、多様なニーズに対応できる体制を整えている。		
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○　地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化･教育機関等と協力しながら支援している。	町内会やボランティア、近隣施設の利用など、協力を得ている。他の関係機関とも連携している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	本人の体調や状態に応じて訪問美容室を利用するなど、連携を取り、他のサービス利用も出来るように支援している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	必要に応じ訪問や電話連絡など行い前向きな解決につなげるために相談や助言をもらい協働している。		

	項目	取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取組んでいきたい内容 （既に取組んでいることも含む）
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人や家族の希望を大切にし、かかりつけ医や、協力病院などと連携し、症状に応じた柔軟な対応が取れるように対応しています。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	協力病院に、もの忘れ外来があり、専門医による、必要に応じた適切な対応がなされています。		
45	○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	協力医療機関とも24時間連携が取れる体制がある。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	医療機関と連携を図り情報交換や相談している。情報交換する中でいつでも受け入れられる体制作りを職員全員で取り組み、早期退院に向けた相談・支援方法を話し合っている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化や終末期に対しての意思確認を段階的に行い、本人や家族、担当医など関係者との話し合い、ホームとしての支援方法も話し合っている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること･できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	医療機関と連携をとりながら、本人・家族の意向も含め事業所としてどう取り組んでいけるかを考えながらチームとして取り組んでいる。		

	項目	取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取組んでいきたい内容 （既に取組んでいることも含む）
49	○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	リロケーションダメージを最小限にと止められるよう、ケアマネージャーや関係者又はご家族と情報交換や話し合いの場を設けている。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	ミーティング等を通し職員間の意識統一・向上に取り組み、職員全員のケアの取り組みにも注意をし、自尊心を傷つけないよう配慮している。特に排泄等に関わる対応や言葉かけには配慮をしている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	本人の分かる力に合わせて、声かけの内容や方法を工夫し、出来るだけ自己決定できるように、困難な場合でも本人が自分で決めたという満足や自尊の感情が持てるように支援している。表情や視線などで意思を表示することができる方もいるので、コミュニケーション方法の幅を広げるよう努めている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	その日の入居者さんの望みや、ニーズを本人の希望を聞くことによって把握し、朝のミーティング時に、その日の介護計画を立て実践している。		
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容･美容は本人の望む店に行けるように努めている。	季節毎の衣替えをし、本人の希望を聞き、馴染みの、美・理容室に行ける体制を整えています。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	嗜好調査を活用し、献立に活かすと共に、各入居者さんの状態に合わせた形態での、食事を提供することによって食事を楽しめるよう勤めています、また快く準備や、片付けが出来るような、ステージ作りも行うよう心がけて支援しています。		

項目		取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取組んでいきたい内容 （既に取組んでいることも含む）
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	医療的な部分も含め相談しながら入居者の健康・体調面も考慮しながら好みの物が楽しめる様にしている。また、楽しめる時間や場所作りに努めている。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄チェックパターン表を活用しながら、入居者の状態に合わせて出来るだけトイレでの排泄やオムツ・パット使用を抑えるように取り組んでいる。また入居者さんにより排泄のサインを出している場合もあるので、それを見逃さず誘導できるように、どのようなサインがあるのかを観察・記録、職員間での情報の共有に努めている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	必ず本人の好みの時間や、入る意欲を確認しながら入浴の支援を行っています、また好みの入浴剤や、好みの温度を確認し、入浴を楽しめるよう支援しています。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	眠たい・眠りたいと感じれる環境や雰囲気作りをしたり、休む前の習慣を取り入れながら支援している。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	生活暦や習慣の把握に努め、本人の役割や楽しみ事をサービスプランに盛り込んでいる。調理参加や畑仕事、ゲームなどひとり一人の入居者さんに合わせて実施しています。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人・家族と相談しながら、本人の能力に応じて本人にお金を管理してもらったり、買い物の際には実際に選んでもらったり支払をしてもらえるようにしている。		

項目		取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取組んでいきたい内容 （既に取組んでいることも含む）
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	ひとり一人の習慣や好み、希望に応じて、戸外に出かけています。戸外に出ることを遠慮したり、こわさを感じている入居者さんに対しては、戸外に目的を持っていただいたり、他の入居者さん達が楽しく戸外で活動している様子を見ていただいたりと工夫しています。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	誕生日には、本人の希望を聞き、外出や外食の支援を行うと共に、ご家族様や本人の希望があれば、一緒に外出する体制作りに努めています。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望に応じて電話してもらったり、お礼の電話や手紙を書いてもらえる様に支援しています。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	広く開放的な玄関になっており中も見やすく入りやすくなっている。地域の活動に入居者・職員で参加する事で馴染みが出来たり、訪問に繋がっている。		
（4）安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	介護保険法指定基準において禁止となっている行為を具体的に勉強会や研修会で学び理解を深め職員全員で共通理解の下日々のケアに取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	寄り添いケアや目配りなどを徹底し、センサーを活用、日中も常に鍵を掛けないケアを実践しています。		

項目		取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取組んでいきたい内容 （既に取組んでいることも含む）
67	○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	目配り・気配りを大切にし、職員間でも声を掛け合ったり、入居者との会話の中で気付きを大事にし安全の配慮に取り組んでいる。		
68	○注意の必要な物品の保管･管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	取り扱いや、誤食につながる物は、一律に一掃するのではなく、その入居者さんの個別の状態に合わせ考慮して保管しています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ヒヤリハット報告書や、事故報告書は常にスタッフ全員が確認できる様にし、情報を共有することによって、事故に対する認識を高めるよう努めています。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	マニュアルがあり、定期的な訓練を実施している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	マニュアルを作成し、定期的に消防とも協力した、避難訓練を実施。地域にも働きかけている。		
72	○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	現状に即したリスク対応に関して面会時や電話などにて話し合っている。		

項目		取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取組んでいきたい内容 （既に取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	朝・昼・晩と1日3度の、血圧・体温測定を通し、本人の状態を確認しています。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬リストを作成し、薬効や副作用について周知できるようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	便秘の予防と対応に努めている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後の歯磨きが出来るように支援をしている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事、水分摂取量を記録に残し、摂取量の確保に努めている。栄養士によるカロリー計算されたメニューを使用し、必要に応じ相談ができるようにしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウィルス等）	外部や内部の研修にて予防対策を取り決めている。		

項目		取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取組んでいきたい内容 （既に取組んでいることも含む）
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	新鮮で安全な食材の使用と管理を実施している。食中毒警報が出たときには、保健所から連絡をもらっている。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	常に鍵を掛けず開放し、周囲に畑や、花壇を設けることで、近隣の人に親しみやすい環境を整えるよう努力しています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居者さんの状態や個別の関係に配慮した、椅子やソファーの配置を常に工夫し、ストレスのない日常生活を送れるよう努めています、また季節毎の空調や、時間毎の光量の調節を行っています。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	入居者さん個別の関係や、状態に合わせた居場所作りに努めています。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人や家族と相談し、なじみのものや、好みのものなど必要時は購入し、居心地よく過ごしてもらえるよう配慮している。		
84	○換気･空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	定期的な換気を行い、温度湿度計を各箇所へ設置し、居室や居間、浴室など空調の配慮を行っている。		

項目		取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取組んでいきたい内容 （既に取組んでいることも含む）
（2）本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	必要箇所には手すりを取り付けたり、必要に応じ杖や車椅子を使用したりと安全で自立した生活となるようにしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	1人1人の持っている力をアセスメントし、個別のケアプランを作成することによって、スタッフが情報を共有しケアプランの実施に努めています。		
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	畑や花壇を作り、ベンチを置いている。裏の広場を活用し、外での食事や休憩など必要に応じた空間を活用。ベランダも利用し、外回りや空間を有効活用している。		

Ⅴ．サービスの成果に関する項目			
項目		取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんど掴んでいない	①
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	①
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない	①
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない	①
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない	②
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない	①
94	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない	①
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	①ほぼ全ての家族 ②家族の2／3くらい ③家族の1／3くらい ④ほとんどできていない	②

Ⅴ．サービスの成果に関する項目			
項目		取り組みの成果	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない	②
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない	①
98	職員は、生き生きと働けている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2／3くらいが ③職員の1／3くらいが ④ほとんどいない	①
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2／3くらいが ③利用者の1／3くらいが ④ほとんどいない	①
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2／3くらいが ③家族等の1／3くらいが ④ほとんどいない	②

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

（日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点
等を自由記載）